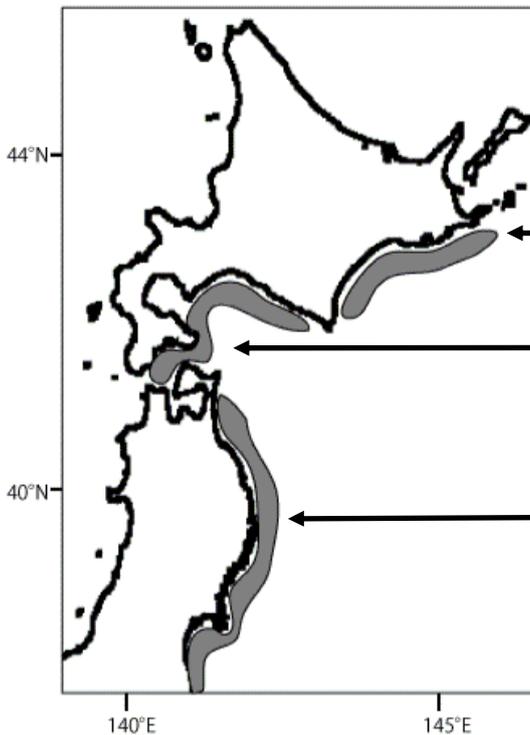


## 平成24年度 第1回 太平洋スルメイカ長期漁況予報

－ 別表の水産関係機関が検討し独立行政法人水産総合研究センター  
北海道区水産研究所がとりまとめた結果 －

### 今後の見通し(平成24年7月～9月)のポイント

常磐～道東太平洋の北部太平洋海域におけるスルメイカの  
来遊量は全体としては前年を下回る。



道東太平洋海域：  
来遊量は前年を下回る。  
魚体は前年並み。

津軽海峡～道南太平洋海域：  
来遊量は前年を下回る。  
魚体は前年より小さい。

常磐～三陸海域：  
来遊量は前年を下回る。  
魚体は前年より小さい。

### 問い合わせ先

水産庁 増殖推進部 漁場資源課

担当：沿岸資源班 新村、長谷

電話：03-3502-8111(内線6800)、直通電話：03-6744-2377、ファックス：03-3592-0759

当資料のホームページ掲載先URL

<http://www.jfa.maff.go.jp/j/press/>

(予報の詳細についてのお問い合わせ先)

独立行政法人水産総合研究センター 北海道区水産研究所 業務推進部

担当：野上、秋山

電話：011-822-2131、ファックス：011-822-3342

当資料のホームページ掲載先URL

<http://abchan.job.affrc.go.jp/>

<http://hnf.fra.affrc.go.jp/>

# 平成24年度 第1回 太平洋スルメイカ長期漁況予報

## 今後の見通し（2012年7月～9月）

対象魚種：スルメイカ

対象海域：常磐～三陸海域、津軽海峡～道南太平洋海域、道東太平洋海域。

対象漁業：いか釣り、底びき網、定置網、まき網。

対象魚群：冬季発生系群（2012年級群）。

### 1. 常磐～三陸海域（いか釣り、底びき網、定置網、まき網）

- (1) 来遊量：前年を下回る。
- (2) 漁期・漁場：対象期間を通じて漁場となる。
- (3) 魚体：前年より小さい。

### 2. 津軽海峡～道南太平洋海域（いか釣り、定置網）

- (1) 来遊量：前年を下回る。
- (2) 漁期・漁場：対象期間を通じて漁場となる。
- (3) 魚体：前年より小さい。

### 3. 道東太平洋海域（いか釣り、底びき網）

- (1) 来遊量：前年を下回る。
- (2) 漁期・漁場：漁場形成は前年より遅い。
- (3) 魚体：前年並み。

## 漁況の経過（2012年5月～6月）および今後の見通しについての説明

### (1) 資源状態

太平洋海域で漁獲されるスルメイカは、冬季発生系群が主体であり、これに秋季発生系群の一部が含まれる。太平洋海域における資源水準を漁獲量の動向から推測すると、1970年～1980年代は低位水準で推移した。1989年から増加に転じ、それ以降では1996年（年間漁獲量：27万6000トン）が最も資源水準の高い年となった（図1）。1990年以降は高位から中位水準で推移しており、直近3年の漁獲量は横ばいで、12万1000トン～15万3000トンの範囲であった。

主漁場は常磐以北太平洋海域であり、来遊経路から常磐～三陸海域、津軽海峡～道南太平洋海域および道東太平洋海域に区別される。2011年7月～9月の常磐以北太平洋海域での漁獲量（生鮮）は4万7000トンであり、常磐～三陸海域では2万5100トン、津軽海峡～道南太平洋海域では8100トン、道東太平洋海域では1万1700トン、太平洋のそれ以外の海域で2100トンであった（図2）。なお、近年の漁獲量のピークは9月～11月である。

### (2) 関連調査結果

#### A：第1次漁場一斉調査

##### 1) 太平洋第一次漁場一斉調査

6月上旬～下旬に実施された第1次漁場一斉調査（釣り）の結果、全水域の平均CPUE（いか釣り機1台1時間当たり漁獲尾数）は0.50尾であり、2011年（0.76尾）および2006年以降の平均値（0.88尾）を下回った（図3）。

三陸周辺海域（41°N以南、143°E以西）では0.60尾であり、2011年（1.43尾）を下回った。津軽海峡～道南太平洋海域（41°N以北、143°E以西）では採集されず、2011年（0.03尾）を下回った。沖合域（143°E以东）では0.58尾であり、2011年（0.74尾）を下回り、いずれの海域においてもCPUEは前年を下回った。CPUEが10尾を超えた海域は沖合域で認められ、この海域に比較的高い密度で分布していたと推測される。

##### 2) 日本海漁場一斉調査

6月下旬～7月上旬に日本海において実施された漁場一斉調査の結果、津軽海峡西口周辺海域（39°N～42°N、138°E～140°E）における平均CPUE（いか釣り機1台1時間当たり漁獲尾数）は12.8尾であり、2011年（14.1尾）並みであった。

#### B：新規加入量調査結果

5月下旬～6月上旬に常磐～三陸周辺海域および沖合域で実施された表中層トロールネットを用いた漁獲試験の結果（図4）、外套背長5cm未満のスルメイカの平均漁獲尾数（30分曳網当たり漁獲尾数）は26.9尾であり、2011年（31.3尾）並みで、近年5年平均（68.4尾）を下回った。予測期間内に漁場への加入が見込まれる外套背長5cm以上の個体の平均漁獲尾数は7.3尾であり、2011年（2.1尾）を上回ったが、近年5年平均（9.6尾）は下回った。外套背長5cm以上の個体は150°E以东に多く採集され、2011年よりもやや沖合側に分布していた。

#### C：魚体の大きさ

6月上旬～下旬に実施された漁場一斉調査（釣り）で漁獲されたスルメイカの全調査点での外套背長組成は、モードが16cmにある単峰型の組成であり、2011年（16cm）と同様であった。海域別にみると、三陸周辺海域のモードは16cmと18cm（2011年：17cm）にあった。沖合域全体では16cmで2011年（16cm）と同様であったが（図5）、北緯41度ラインで採集されたスルメイカのモードは10cm未満で前年より小型であった。津軽海峡海域の調査では採集されなかったため不明であるが、大畑港で水揚げされたスルメイカのサイズ組成は前年より小型の個体が多い傾向が見られた（漁業情報サービスセンター）。新規加入量調査で漁獲されたスルメイカの全調査点での外套背長組成のモードは1cmにある単峰型の組成で2011年と同様であったが、外套背長4cm以上の個体の比率は2011年より高かった。

6月の若鷹丸によるカレイ類・マダラ0歳魚分布調査において仙台湾で着底トロール網により漁獲されたスルメイカの外套背長のモードは、15cm～17cm（2011年：19cm）であった（図5）。

### （3）2012年の各海域の漁況経過（5月～6月）

各地域での漁況経過を表1に示した。2012年5月～6月の太平洋沿岸主要港での水揚げ量（生鮮：速報値、一部未集計）は700トンで、前年（2011年5月～6月、1000トン）を下回った。三陸海域南部～常磐海域での5月～6月の主要港での水揚げ量は3トンで前年（100トン）を下回った。三陸海域北部での5月～6月の主要港での水揚げ量は500トンで前年（600トン）を下回った。津軽海峡～道南太平洋海域の水揚げ量は200トンで前年（300トン）を下回った。

### （4）今後の見通しの説明

・5月に実施した新規加入量調査において今後加入が期待される5cm以上のスルメイカの採集尾数は、前年を上回ったが近年5年平均を下回った。6月の漁場一斉調査のCPUEはいずれの海域でも前年を下回った。以上のことから、本予報対象期間である7月～9月の来遊量は概ね前年を下回ると推測される。

・常磐～三陸海域での漁獲対象資源は太平洋沿岸域を北上する群を主体に、津軽海峡から回遊する日本海由来の群が加わると考えられている。三陸周辺海域における漁場一斉調査でのCPUEは前年および近年5年平均を下回った。漁場一斉調査の結果から判断すると、太平洋沿岸域を北上する群の資源量は概ね前年を下回ると判断される。一方、津軽海峡からの来遊量は、前年並みと推測される（後述）。以上のことから、常磐～三陸海域の来遊量は前年を下回ると予測される。魚体サイズは、漁場一斉調査、カレイ類・マダラ0歳魚分布調査の測定結果から、前年（モード、8月20cm、9月22cm）より小型の個体が主体になると考えられる。

・津軽海峡～道南太平洋海域での漁獲対象資源は、太平洋沿岸を北上する群を主体に、津軽海峡から回遊する日本海由来の群が含まれると考えられている。津軽海峡東口周辺海域での調査船によるCPUEは前年を下回ったことから、津軽海峡東口～道南太平洋海域への来遊量は前年を下回ると推測される。また前述のとおり、太平洋沿岸を北上する群の資源量は前年を下回ると推測される。津軽海峡西口周辺海域での調査船によるCPUEは前年並みで、函館港に水揚げされた小型いか釣り漁業によるCPUEも前年並みであったことから、日本海由来の来遊量は前年並みと推測される。以上のことから、津軽海峡～道南太平洋海域への来遊量は前年を下回ると予測

される。魚体サイズは、水揚げ物のサイズ組成から、前年（8月19cm～20cm、9月21cm）より小型の個体が主体になると考えられる。

・道東太平洋～根室海峡周辺海域に來遊する漁獲対象資源は、沖合域を北上する群と考えられている。漁場一斉調査における沖合域でのCPUEは前年を下回ったことから、道東太平洋海域に來遊するスルメイカの資源量は前年を下回ると推測される。また、水産総合研究センターの海況予測システム（FRA-ROMS\*）によると、本年は道東沖合域への北上暖水の張り出しは前年よりも弱勢と予測されるため、道東沿岸域への北上回遊時期は前年よりも遅くなると推測される。以上のことから、7月～9月における來遊量は前年を下回ると予測される。魚体サイズは、漁場一斉調査の結果から、前年（8月20cm、9月22cm）並みの大きさの個体が主体になると考えられる。なお、根室海峡～オホーツク海への來遊時期は、例年通り10月以降になると予測される。

\*独立行政法人水産総合研究センターにより開発され、2012年5月より運用を開始した海況予測システム

表1. 漁況経過（2012年5月～6月、一部未集計・暫定データ含む）

	漁況経過
北海道 道東	道東太平洋主要港での釣りによる水揚げは7月13日時点では、まだ見られていない（2011年は釧路港が7月26日）。
北海道 道南	6月における函館港での釣りによる水揚げ量は148トンで、前年比171%であった。CPUEは前年比118%であった。
青森	6月の白糠港への釣りによる水揚げ量は、48トン（前年比57%）であった。CPUEは前年比108%であった。6月の八戸港の釣りによる水揚げ量は8トンで、6月27日に初水揚げがあった（前年よりも1日早い）。6月の大畑港の釣りによる水揚げはなく、7月6日に初水揚げがあった（前年より4日早い）。
岩手	6月の主要7港による水揚げは、底びき網による漁獲が4トン（震災前の近年5年平均比16%）、定置網による漁獲が107トン（震災前の近年5年平均比16%）、釣りによる漁獲量は1トン（震災前の近年5年平均比4%、CPUEは25%）であった。6月15日時点で大型定置網は70%、小型定置網は48%が復旧した。6月末時点で、いか釣り許可漁船全73隻中49隻が今漁期に操業を行うことが確定している。
宮城	6月の主要10港における水揚げは、底びき網による漁獲量が226トン（震災前の近年5年平均比14%）、定置網による漁獲量が23トン（震災前の近年5年平均比11%）であった。釣りによる漁獲量（2トン）は、震災前の近年5年平均比3%で、CPUEは58%であった。
福島	原発事故の影響により、6月末の時点で操業は行われていない。
茨城	6月の主要港における水揚げは、沖合底びき網による水揚げ量が1トン（前年比9%）、小型底びき網による水揚げ量が1トン（前年比22%）であった。CPUEはそれぞれ前年比23%、57%に減少した。
千葉	5月～6月の主要港における定置網による水揚げ量（2トン）は、2011年（5トン）を下回った。

神奈川	5月～6月の主要2港における定置網による水揚げ量（0.5トン）は2011年（4トン）を下回った。釣りによる水揚げ量（0.2トン）は2011年（1トン）を下回り、CPUEは前年比32%であった。
静岡	5月～6月の主要港における釣りによる水揚げ量（9トン）は、2011年（13トン）を下回り、CPUEは前年比97%であった。
三重	5月～6月の主要港における中型まき網による水揚げ量（123トン）は、2011年（11トン）を上回った。
和歌山	5月～6月の主要2港における釣りによる水揚げ量は1トンで、2011年（11トン）を下回った。
高知	5月～6月の主要3港における釣りによる水揚げ量（0.09トン）は、2011年（10トン）を下回り、CPUEは前年比34%であった。

注：CPUEは1日1隻当たり漁獲量

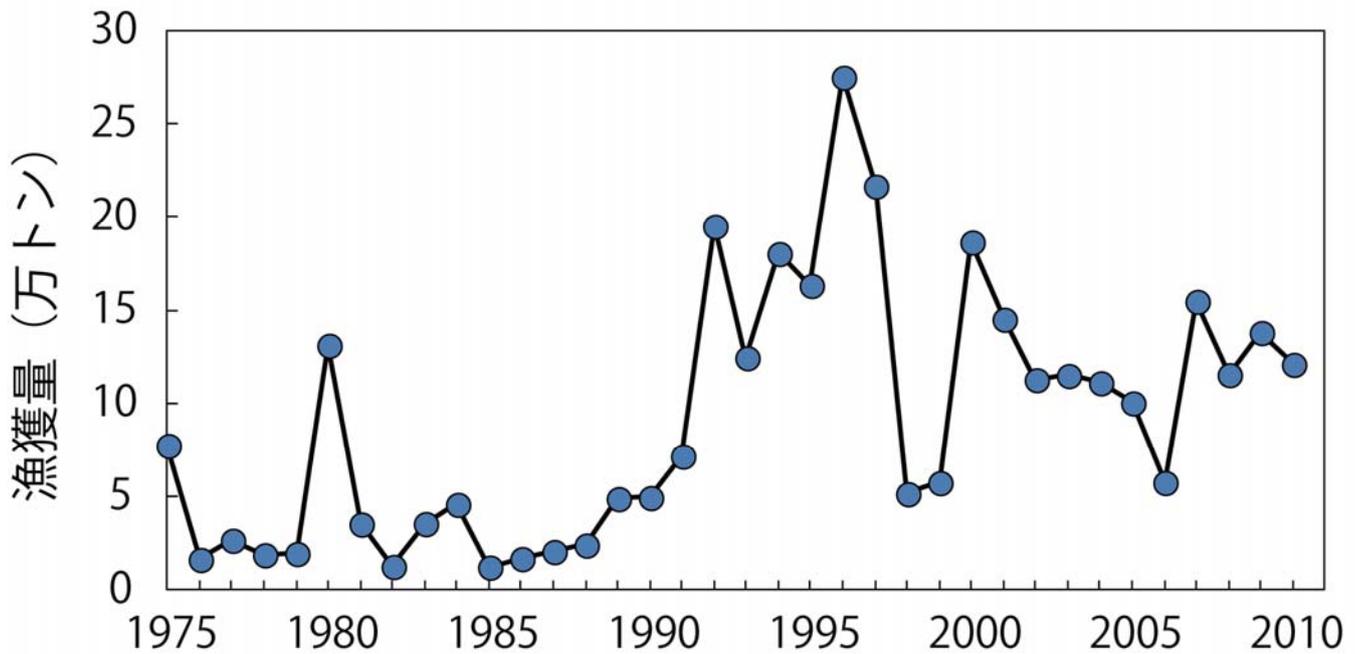


図1. 太平洋におけるスルメイカの年別漁獲量の推移  
(集計値は暦年)

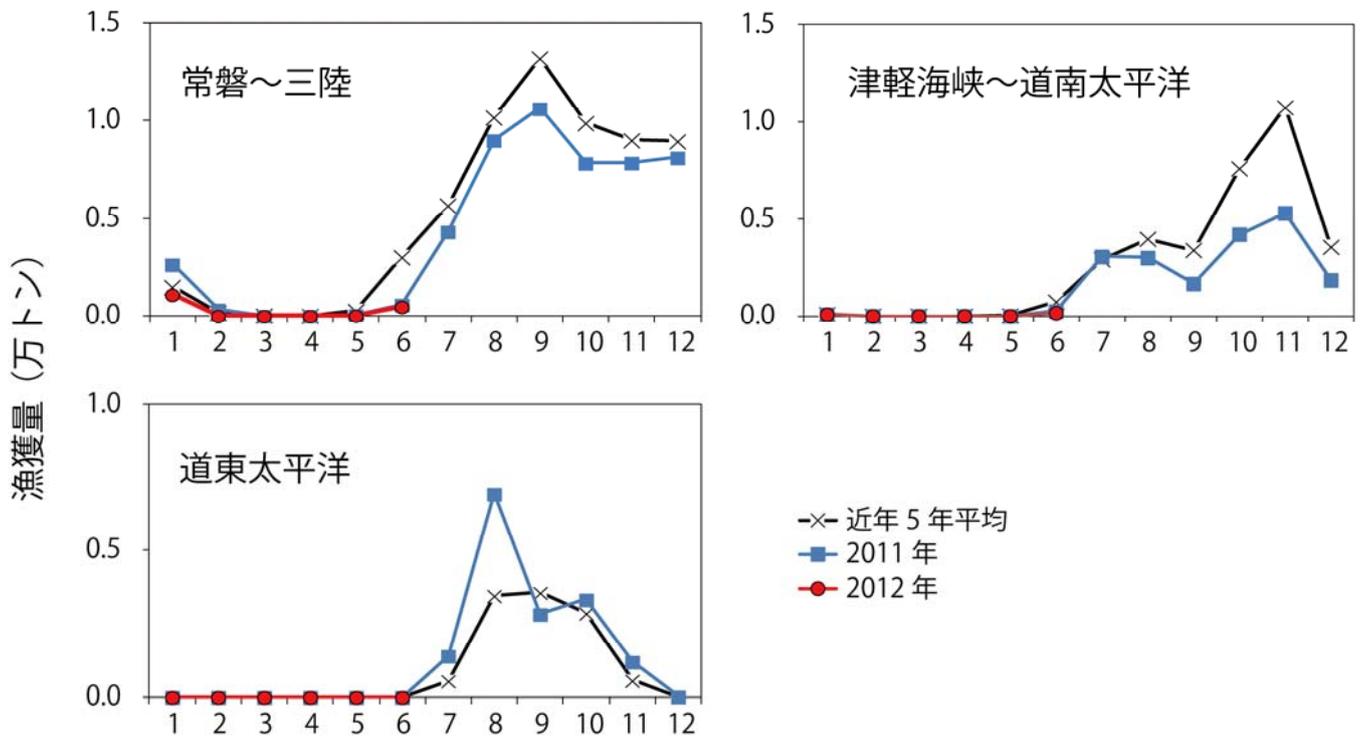


図2. スルメイカ月別海域別漁獲量（生鮮）

近年5年平均は2007年～2011年の平均

（釣り・定置網・底びき網・まき網）

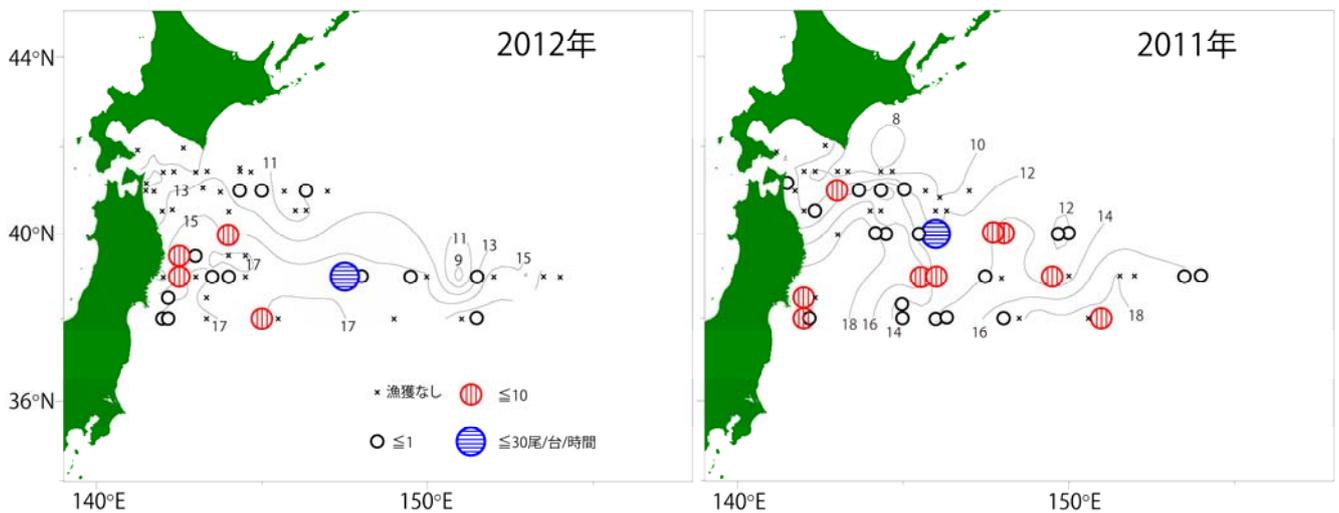


図3. 太平洋いか類漁場一斉調査の結果

2011、2012年に実施された第1次漁場一斉調査におけるスルメイカのCPUE

（いか釣り機1台1時間当たり漁獲尾数）の分布。×は漁獲が無かった点。

実線は等温線（海面水温）を示す。

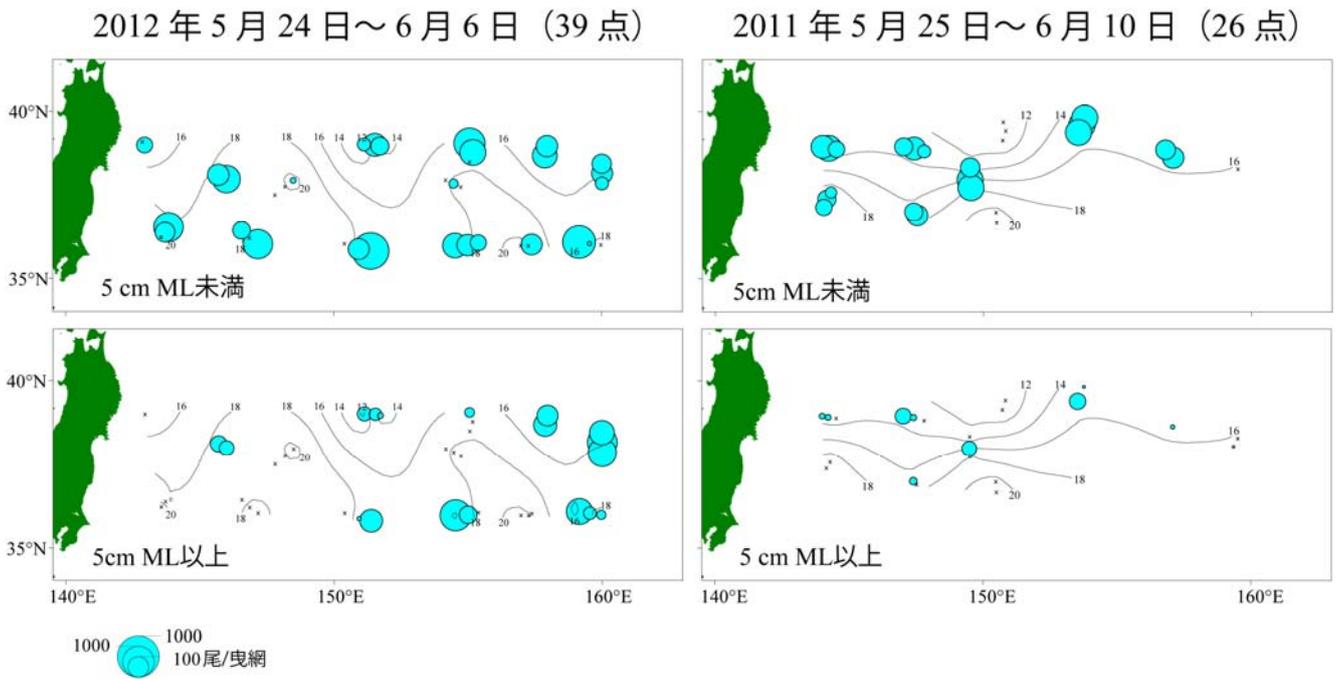


図4. 新規加入量調査の結果  
 2011、2012年に実施された新規加入量調査におけるスルメイカのCPUE  
 (30分曳網当たり漁獲尾数)の分布。×は漁獲が無かった点。実線は  
 等温線(海面水温)を示す。

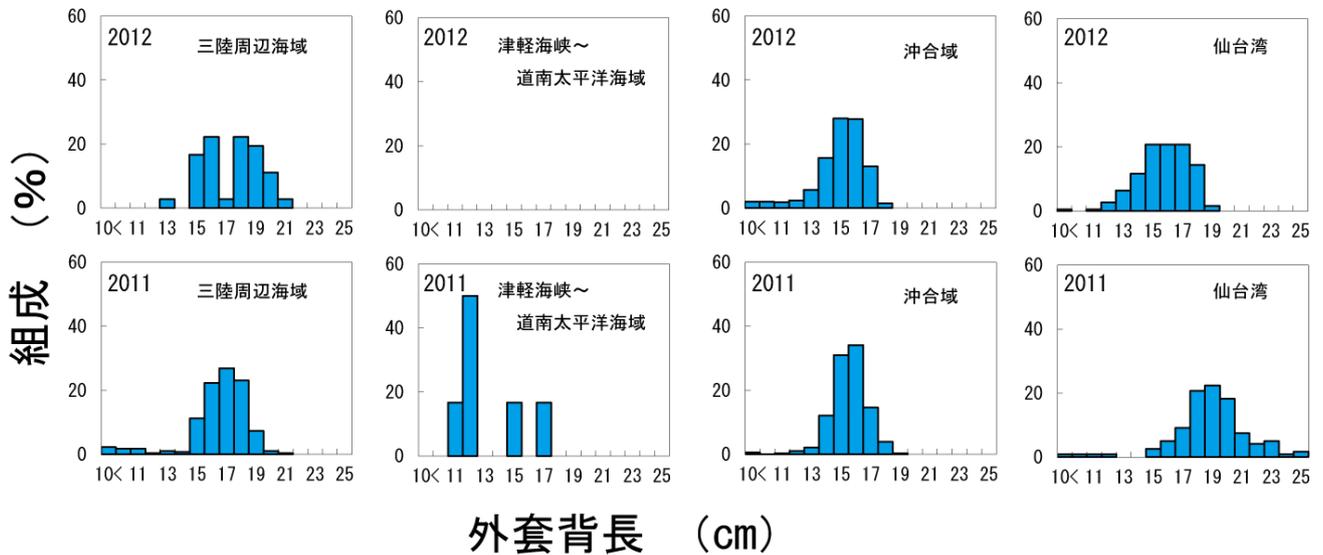


図5. 漁場一斉調査(三陸周辺海域・津軽海峡～道南太平洋海域・沖合域)および  
 カレイ類・マダラ0歳魚分布調査(仙台湾)による外套背長組成

## 参 画 機 関

地方独立行政法人 北海道立総合研究機構 水産研究本部 釧路水産試験場 函館水産試験場	三重県水産研究所
地方独立行政法人 青森県産業技術センター 水産総合研究所	和歌山県農林水産総合技術センター 水産試験場
岩手県水産技術センター	高知県水産試験場
宮城県水産技術総合センター	社団法人 漁業情報サービスセンター
福島県水産試験場	水産庁 増殖推進部 漁場資源課
茨城県水産試験場	独立行政法人 水産総合研究センター 東北区水産研究所 日本海区水産研究所 中央水産研究所
千葉県水産総合研究センター	(取りまとめ機関)
神奈川県水産技術センター	独立行政法人 水産総合研究センター 北海道区水産研究所
静岡県水産技術研究所	